

し、種類増加すれば、難症も亦發生するに似たり。彼に名醫を缺き、良薬なきは畢竟風氣未開にして其の必要あらざるに職由す。實に彼等の病症は、頗る單純なるものにして、我國人等が、最も輕視する所の賣薬の如きも、試に之を投ずれば、其の奇効を奏するや、全く豫想外に在り。然らば如何なる藥品が、携帶施與に適するかと云ふに、固より貴重ものを要せず、只尋常普通の品にて足る。笑ふことを休めよ、寶丹、井上目薬(貝入)「キニー子」乃至胃散の類を、稍多量に携帶するを以て、最も適切と信ずるなり。是等の藥品を施與して、眼前彼等の病苦を救へば、彼等は我を神醫として、意外の便宜を與へ呉るゝなり。

又支那地方官等は、一般に外人を優遇するの風あるが故に、多少の贈品を準備すること必要なり。乃ち積量の小にして、且つ容易に破損せざる物品を擇ぶを可とす。予は京都製の額面、絨畫、時計、眼鏡等を携帶して、彼等の款待に酬いしが、大に其の好奇心に投じて、便宜を得たり。其他游牧民に向ては、磚茶、小刀、玻璃鏡、絹片、擬珊瑚等を宜しとす。若し夫れ千里異域の地、四顧無知の境に於て、旅情を慰むる人あらば、其の快感や實に千金に換え難きもの有るべし。此時此際、自國の物品を以て